

令和7年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会

第2回登山道部会 議事要旨

■日時:令和7年12月22日(月)10:00~12:00

■場所:新ひだか町地域交流センターピュアプラザ 多目的室(Web 会議システム併用)

■議事概要

1. 開会(司会:北海道地方環境事務所国立公園課課長補佐 田畑)

2. 議事

(1)日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレード(案)について

・資料1、資料2及び資料3について、事務局より説明。

<質疑等> ※→:事務局

【論点1.日高山脈襟裳十勝国立公園登山道利用体験グレードマップ(案)について】

○グレードAはピンネシリのみだが、道がわかりにくい場所もあり、ピンネシリが特筆して簡単とは思えない。この設定は妥当か。

→一定の基準に従って整理した結果であるが、特筆して簡単なコースと受け止められることへの懸念をいただいた。

→難易度の誤解を招かないよう留意事項や説明文を工夫する予定である。

○日高山脈のグレードを6段階にした理由は何か。

→大雪山が5段階であるのに対し、日高山脈の難易度の高さや特徴を明確にするため、6段階としている。

○グレードA~Fの具体的な難易度や違いを、初めて見る人にも分かりやすく説明できているか。

→現在は十分な説明がなく、難易度の誤解を招く恐れもある。今後、大雪山のグレード表記のように、文章やピクトグラムで具体的な難易度を分かりやすく表現できるよう検討する。

○アクセスルート等の説明文について、誤解を招かないように工夫が必要。特に、専用林道の通行は、自己責任であって、一般道と同等の安全が保障されたものではないので、その旨は明示した方が良い。後ほど、通行安全上の誤解を招かず、より正確かつ簡潔な表現を提示する。

○イドンナップ山荘への林道は期間限定での開放であるため、「期間限定で通行できる」という注意書きが適切である。最新情報を確認すべきとする記載は妥当だが、全面通行止めではないことを明記する必要がある。

- 神威岳のアクセス情報(林道名や通行止め情報)は正確か。
- 林道名や通行止めの記載に誤りがあり、実際には道道368号線の土砂崩れで神威岳へのアクセスができない状況である。
- 正確な道路名や状況について情報をいただいて、正しいものに修正する。
- ペテガリ岳のグレード設定は、登山口から山頂までの評価だけで良いのか。アプローチ道を含めるべきではないか。
- 今回はアプローチ道の道道の扱いなど他の状況も踏まえ示せる範囲に限り、ペテガリ山荘(登山口)から山頂までを評価対象として掲載することとした。ペテガリ岳は、実際には長い行程を要することについて、ルートごとの留意事項に明記する必要があると考える。
- 「ペテガリ山荘までは車両・徒歩とも通行止め」ということも留意事項に明記しておくべきである。グレード設定の理解を得るため、正確な情報の記載が必要である。
- 読み方が難しい山名には、ルビを振った方が良いのではないか。
- 今後、ルビを追加する。
- 1つのグレードで示している区間において、ルート上の中継地点やその間にあるピーク(ヤオロマップ、北戸蔦別岳等)の表記方法はどうか。
- 路線内でグレードを分割することの取扱いについては、改めて丁寧に整理しておくべきだと考える。北戸蔦別岳の扱いはワーキンググループで整理済みと理解していた。
- 本取扱いについては、ワーキンググループで再度意見を集約し、合意を得た上で決定する。

【論点 2. グレード検討のデータについて】

- 検討経過やバックデータはどこまで公開するか。
- 資料3参考 1 は、部会資料としての HP 公開を想定し、資料2の完成版には記載しない。同参考 2 は、資料に記載のとおり、有料の民業との権利調整が不可欠等の事由があることから、非公開としたい。
- 詳しく知りたい人は部会資料まで調べ、ただ活用したい人は最終結果がわかれば十分と考えると思われるので、事務局提案の取扱いで良い。＜その他異議なし＞

(2)その他各構成員からの情報提供【報告】

- 1)日高北部森林管理署管内の入林簿記載者数(日高北部森林管理署)
- ・日高北部森林管理署管内の入林簿記載者数について、日高北部森林管理署より説明
- 記載者数は実際の入林者数よりは少ないだろう。ただし、毎年一定数は記載しない者がいると推測されるため、増減のおおよその傾向は示していると考え。今年度

大幅に減少した理由は明確ではないため、今後も継続的に動向を注視する必要があると考えている。

2) 十勝自然保護協会の取り組み(十勝自然保護協会)

・十勝海岸のゴミ拾いの取り組みとマイクロプラスチックについて、十勝自然保護協会より説明

○森林施業のマーキングテープをしばしば見かける。森林管理署では、どのようなものを使っているか。

○テープの仕様について、確認の上回答する。

○平取町山岳会では生分解性のものを使っているが、生分解性テープのピンク色は見えづらいという声があり、来年度は色の変更を試行予定である。

○以前はどの団体もテープに日付等を記入していたが、今は書いていないものが多い。日付等の記載があれば、要不要を判断の上ゴミとして回収もできる。

3. その他

○アポイ岳ファンクラブでは毎年登山道の整備を行っている。今後は登山道の整備方針について話し合う場が必要だと考えているので、この場が適切か、別途場を設けるのが適切かなど、議論していければと考えている。

○平取町では幌尻岳(額平川ルート)登山のための安全対策やトイレ整備を目的に、ふるさと納税型クラウドファンディングを実施中である。資金確保方法の参考になればと思い、情報提供した。

→登山道整備の資金確保にはクラウドファンディングやふるさと納税の活用例もあると聞く。他の自治体や団体でも参考にできると思うので、積極的に情報提供いただけるとありがたい。

○登山道や林道の整備・管理には、近年の異常気象による影響も考慮した対策が必要だ。

→気候変動への適応は必要な視点と考える。

○登山者数などの利用者データは、登山道整備や優先順位の決定にとっても重要なので、今後も定期的にデータを整理・蓄積していく必要がある。今回報告された他にも、登山口で入林簿やカウンターを設置し、集計している事例はあるか。

○様似町ではカウンターを設置しているが、登山者数は入山簿の記入数で把握している。近年は登山者数が少しずつ減少傾向にある。

○環境省としてトラフィックカウンター等を設置する予定があるか。現状設置されている場所は一箇所もないという理解でよいか。

→現時点で環境省が設置したものはない。状況に応じて、関係機関等との役割分担の下、将来的に検討の可能性はある。

- 幌尻岳ではバスが運行しているが、利用者数の把握は可能か。
- 幌尻岳額平川ルートでは、基本的にシャトルバス乗車人数が登山者数と考えている。適切な把握は、遭難対応にも役立つ。
- 各自治体や森林管理署等で登山者数データを年度ごとに集計し、部会で共有いただけないか。今後の議論に生かせる重要なデータと考える。
→各構成員でお持ちの登山者数の集計データを、年度末又は年度はじめの登山道部会で報告いただけるとありがたい。事務局で取りまとめて共有できるよう、可能な方法を今後検討したい。

4. 閉会